

令和3年度 第1回 川崎市地域公共交通会議 議事録

1. 開催概要

開催日時	令和3年6月30日（水）13時30分から15時00分まで		
開催場所	J Aセレスみなみビル 3階 会議室		
議 事 （公開）	(1) 地域交通の手引き見直しについて 【報告事項】 (2) コミュニティ交通の運行計画の変更について 【報告事項】 (3) 地域と連携したコミュニティ交通の利用促進について 【報告事項】		
出席委員 (14名)	(敬称略)		
	所 属	氏 名	備 考
	東海大学 工学部土木工学科 教授	梶田 佳孝	
	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授	有吉 亮	
	川崎鶴見臨港バス株式会社 常務取締役 運輸部長	入野 晴朗	
	川崎タクシー株式会社 代表取締役	関 進	代理出席 関 専務取 締役
	一般社団法人神奈川県バス協会 理事長	八郷 大文	
	一般社団法人神奈川県タクシー協会 川崎支部 事務局長	大葉 章彦	
	川崎市全町内会連合会 常任理事	高橋 慶子	
	市民（公募による選出）	本多 寛	
	市民（公募による選出）	田淵 治恵	
	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	三橋 裕	代理出席 桑野 運輸 企画専門官
	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	小山 國正	
	神奈川県警察本部 交通部 交通規制課 都市交通対策室長	飯島 敏明	代理出席 平塚 副室長
	川崎市 建設緑政局 総務部長	齋藤 正孝	
	川崎市 まちづくり局 交通政策室長	定山 武史	
事務局	4名		
傍聴者	4名		

2. 会議内容

会議冒頭、事務局より、「川崎市地域公共交通会議設置要綱（以下「要綱」という。）」第5条第1項の規定により、会長の互選を行い、事務局からの提案通り、梶田委員を会長に選任。また、会長より、会長に事故がある場合その職務を代理するものとして、有吉委員を副会長に指名。

以下、進行内容を要約して記載。

(1) 地域交通の手引き見直しについて 【報告事項】

- 事務局 (資料1により、内容を説明。)
- 梶田会長 事務局からの説明について、各委員から質疑や意見はあるか。
- 本多委員 資料1の2ページ目のグラフで、高石地区の令和元年の収支率が84%と、以前は黒字だったのに落ちている。利用者が減少していないのに赤字になっているのは、平成29年の車両更新が影響しているのか。
- 事務局 車両更新費は全額、市が補助しているので影響はしていない。利用者数は運行開始時の目標に達しているが、運行経費が当時よりも増加しており、収支が赤字となっている。
- 本多委員 白幡台地区では、運行の継続性が課題であるというのは、施設側にメリットが無くなった場合に運行を取りやめる可能性があるというのが課題ということか。
- 事務局 そういったところもあり、また店の存続も保証はされていないので、道路運送法の適用されない状況においては、環境の変化による継続性が課題になるという趣旨である。
- 本多委員 店の存続までを課題にしてしまうと、施設送迎というのはできなくなってしまうのではないか。
- 事務局 地域の方から頂いた意見も踏まえて記載したが、その点も参考とさせていただく。
- 本多委員 3ページ目の見直しの方向性で、「コミュニティ交通の継続性等向上」とあるが、タクシー会社やバス会社は営利を目的にしているので、営利の見込みがない場合には継続性だけに固執せず、別的手段や中止も含めて見直しをするという方向性もあったほうがよい。
- 事務局 ご意見として承る。
- 高橋委員 導入検討地区のうち大半が麻生区である。以前から麻生区の町会連合の役員をしており、高石地区についても経緯を見てきたが、10周年ということで利用者や運営委員も高齢化が進み、川崎市から頂ける敬老パスの利用などが見られる。
細山地区など坂や山が多い地区などがあり、協議会を立ち上げてアンケートまでは行ったが、3~4年と時間がかかった。また麻生区で小田急電鉄がタクシー会社による試行運行も行っており、岡上西地区ではタクシー乗合の試行も行ったが停止しているという地元の状況である。高齢化の中で、会議での地域交通の検討は地元としてありがたく、今後も意見交換をしていきたい。
- 事務局 導入検討地区のA・D・Eが麻生区である。4ページ目に示している現在の支援内容というところで、資金的支援のステップ6が運行地区への支援であるが、先ほどの車両更新の補助と合わせて、コミュニティ交通でも高齢者の運賃支援(高齢者特別乗車証提示で100円引き)を行っている。
地区Dの細山・千代ヶ丘等の地域は駅から離れており、しんゆりシャトルが使いやすい交通手段となるかと思うので、今後も情報提供を行い、MaaSの取組を推進していきたい。

- 高橋委員 1～2年前の時点ではアンケート以降の予算補助は出ない認識だったが、だいぶ様子が変わってきていると今回の説明で把握した。
- 関委員 補足資料「コミュニティ交通に関して寄せられた市民意見」を見て驚いたが、川崎市は過疎化が進んでいるのか。
- 事務局 人口は伸びており、150万人を突破した。
- 関委員 そういった状況で、7区すべてでコミュニティ交通が必要なのかは疑問であり、見直しも一つの選択肢として検討していただきたい。タクシー協会としては岡上西地区での実証実験に協力してきたが、初乗り500円(1.2km)というアウトプットは一つの成果として挙げられる。
- 一括定額運賃制度、ダイナミック・プライシングなど、国での検討のスピードがとても速く、今後さらに選択肢が増えているのではないかと思う。
- 事務局 公共交通には恵まれている面もあるが、局所的に見ると白幡台地区や平地区のように高台に位置しているところから、高齢化に伴ってバス停までの移動も困難という声があり、コミュニティ交通のニーズが高まっているのが現状と考えている。
- 生田地区ではタクシーの有効活用に向けた取組を検討しており、タクシー協会を通じてコミュニティ交通の活用についての意見交換をさせていただきたい。
- 国の制度改革も続けて行われているので、コミュニティ交通に反映できるよう、我々も勉強していく。
- 定山委員 現在、実際に運行・検討を行っているのは資料1の9地区であり、補足資料の箇所はあくまでも要望があった箇所であることはご理解いただきたい。
- 関委員 活性化法というのは基本的には公共交通が不足していて外出が困難な方への移動手段の確保の検討が本質であると思うので、川崎市でその必要があるのかは議論を深めたほうがよい。
- 事務局 既存公共交通の活性化というところは一つの柱において、それを補完するコミュニティ交通として今後手引きの見直しをしていきたい。
- 梶田会長 輸送資源を総動員して、コミュニティ交通の取組を実施していきたい。その他、各委員から質疑や意見はあるか。
- 八郷委員 コミュニティ交通というと赤字補填が原則のようなところが多い中で、横浜や川崎の収支率(山ゆり号:84%)は全国的に見れば健闘しているという感想である。
- 梶田会長 なかなか厳しい状況だが、そういったところを支援していくことが必要と思う。
- 有吉副会長 今回の議論で出てきた新しい概念や情報をわかりやすく説明するのが大事だと思うので、手引きの後ろにある用語集のように、新しいものについても解説いただきたい。
- 見直しのステップで、手引きを読むとステップ6のあと、調査・評価を踏まえてステップ1～3に戻れるとある。地域交通のあり方の検討に戻って、状況が変わっている部分を冷静に議論するというのはとても大事なことで、それができていることが表現されているとよい。またそうして戻る際の根拠として、データで客観的に議論すべきだと思うが、時代とともにコロナや高齢化などによりニーズが変化する中で、的確な地域

需要の把握（アンケートや既存データの活用）というところを検討していただきたい。

梶田会長 頂いた意見をもとに調整して、次回、さらに具体的な話でまた検討をさせていただきたい。

(2) コミュニティ交通の運行計画の変更について 【報告事項】

事務局 (資料2により、内容を説明。)

梶田会長 運行計画の変更は地元協議会と協議した結果である。あじさい号は一旦、平日のみの運行にしていたが、また戻したという状況である。委員から何か質問等あるか。コロナウイルスもあり厳しい状況だということだが、あじさい号の乗客数はだいぶ戻ってきているのか。

事務局 6月に入り、平日の乗客数については伸びてきている。長尾台地区にはあじさいが有名な寺があり、6月は特に乗客数が伸びるということもあるため、協議の結果、運行を戻すという話になっている。

梶田会長 各委員から質疑や意見はあるか。なかなかコロナウイルスにより動いていない状況もあるが、今後の回復を待ちたい。質疑が無ければ次の資料に移る。

(3) 地域と連携したコミュニティ交通の利用促進について 【報告事項】

事務局 (資料3により、内容を説明。)

梶田会長 山ゆり号10周年ということで様々な施策を行っており、その紹介である。マスケットの投票用紙は我々も今日いただけるのか。

事務局 配布資料に投票用紙を付けているので、協力をお願いしたい。

梶田会長 百合丘高校の美術部が描いた6つのキャラクターがあるので、ぜひ投票に協力いただきたい。マスケットが決まればイベント活動等で使用するのか。

事務局 決定すれば、山ゆり号の車体にマグネットで貼ることや、広報資料での活用を検討している。

梶田会長 各委員から質疑や意見はあるか。

田淵委員 後ろに各キャラクターの特徴が載っているので、こちらもご覧になるとよい。

梶田会長 ぜひ読んでいただいてご投票をお願いしたい。

本多委員 資料に第一弾と書いてあるが、第二弾も何か予定しているのか。

事務局 第二弾として、毎年開催している運営委員会主催の山ゆり祭を、令和3年9月に予定しており、こちらに百合丘高校の学生を招待し、マスケット投票の結果発表や、山ゆり号試乗の感想などの意見交換を行いたいと考えている。

有吉副会長 山ゆり号の現在の利用者は、高齢の方が多いという理解でよいか。

事務局 ほとんどが高齢の方であり、サポーター制度もあるのでリピート率は高い。

有吉副会長 そうであれば、今回、普段の利用者とは違う層が関わったというのはとても良いことである。特に高校生というのは今後、社会に出てまちづくりや行政に関わる方も含むので、そういった新しい層へのアプローチは重要である。またこうしたイベントに

において、こういった層への関与を深めるのかという戦略を持つことで、今後の地域交通の検討にも繋がっていくと思うので、こうした活動は継続していただきたい。

事務局 今お話しいただいた視点も踏まえて、今後、運営委員会とも話をしていきたい。

有吉副会長 WEBで投票ができると高校生や中学生も投票がしやすいのではないかと。

事務局 今回、QRコードよりWEBで投票が可能である。

梶田会長 百合丘高校の生徒は地元の住民が主なのか。

事務局 電車やバスで高校に来ており、百合ヶ丘駅からも来ている学生もいる状況である。百合丘高校でも山ゆりを育てるなど、山ゆりとゆかりがある。今回のように、地域との連携を今後も続けていきたい。

高橋委員 今後についてであるが、しんゆりシャトルの利用もそうであるが、全てがアプリ化して電話が無くなるのが考えられる。単身や核家族の高齢者で、スマホを持っていない場合の利用方法について何か考えがあればお願いしたい。

事務局 しんゆりシャトルの1回目の実証実験期間に、コロナウイルスの影響で開催はできなかったが、アプリの利用を拓げるために、ダウンロードや操作についての説明会を企画していたので、今後もそういった取り組みをしていきたいと考えている。

高橋委員 以前は山の方から高齢者の方が買い物にこられた際に、荷物が重い場合は、帰りはスーパーの電話からタクシーを呼んでいた。今は電話がないが、タクシー協会ではどのように捉えているか。

関委員 高齢化が進んでいる地域では、コンビニやスーパーにタクシーを呼んでもらうというアナログなところはまだ残っている。

大葉委員 店頭で設置する形で、アプリと同様にタクシーを呼べるタッチパネルの機械や、オペレーターに繋がる機械が存在するので、設置場所の許可や費用は必要であるが、需要があれば対応は可能である。

梶田会長 安心してコミュニティ交通を利用できる環境があるとよい。

全体を通して、他に質疑はないか。

手引きの内容についても色々な意見を頂いたので、少し修正を行って、次回、細かい部分についての意見をいただければと思う。本日の議題は以上である。